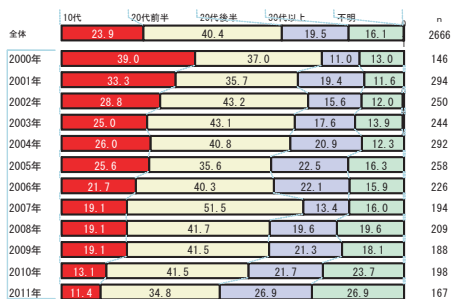


- ・ 全年代に広がりつつある
性感染症 HIV/AIDS
- ・ 思春期の危機に迫る
日本思春期学会に参加して
- ・ 新スタッフ紹介

全年代に広がりつつある性感染症そしてHIV/AIDS

村口きよ女性クリニック院長 村口喜代

図1. 年齢階級別内訳



2000.1-2011.12 村口きよ女性クリニック

日本社会の性開放は1990年代以降急速に進行し、性をめぐる問題が顕在化し、とくに若者を中心に取りざたされてきた。1999年開院した当クリニックも変わり行く社会の“怒涛”とともに歩んできた。以来10年が経過し、最近では“何か少しずつ確実に変わりつつある”との感を強くしている。その一端を当クリニックの性感染症の動向から探ってみます。

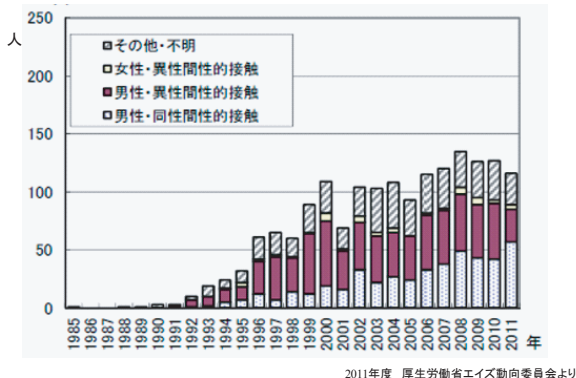
2000～2011年に当院で扱った性感染症（クラミジア、淋菌、ヘルペス、コンジローマ）は総数2666件だったが、それを年齢階級別に見ると（図1）、10代は確実に減少してきており、20代前半・後半は著変なく、一方で30代以上が増加傾向にあり、全年代に広がり

つつある。既婚者でも2006年以降、性感染症は増加傾向にあり、2011年は全性感染者の16.2%を占め、かつ20代から60代まで全年代に亘った。未婚者ではほぼ半数が過去に恋人以外とのカジュアルセックスがあり、既婚者でも1～2割に婚外性交があるなど、男女・人間関係の危うさ・不安定さが結婚の有無にかかわらず、全年代に浸透してきた。一方、約1割の方が性風俗産業に関わっていた。

日本におけるHIV発生動向の調査に注目すると、2011年度のHIV感染者は2008年、2007年、2010年に次ぐ過去4位、AIDS患者は過去最多だった。先進国の中で唯一日本だけがHIV/AIDSが増え続けているといわれてきたが、いまだ相変わらずの状況にある。HIV感染者は20歳代、30歳代に集中しているが、見過ごせないと思ったのは日本国籍の30歳代、40歳代の増加に加え、50歳以上のHIV/AIDSが漸増傾向にあるとのことだった（図2）。この結果は、先のクリニックで見た性感染症の全年代への広がりと同様。性感染症があれば、数倍の確率でHIVに感染しやすいといわれており、今後の動向を注視していかなければならない。

性交開始年齢の低年齢化、長い未婚時代に多数の出会い・別れがあり、セックスパートナーの多数化、カジュアルセックスの広がり、性風俗産業の浸透・蔓延、人間関係・コミュニケーション力の低下、婚外性交、セックスレスの増加、「性は結婚の中に」の社会通念は大崩れ、長期化する不景気と男性の経済力の低下、女性の自立・社会参加の進行・・・、既成の概念・社会規範の危うさの中で、今人々の多くが大きな迷いの中で、自らのベクトルで試行錯誤を繰り返しながら“再起動”を計りつつある、そうした社会の真っ只中に私たちは居るように思える。

図2. 日本国籍AIDS患者(50歳以上)の性別、感染経路別年次推移

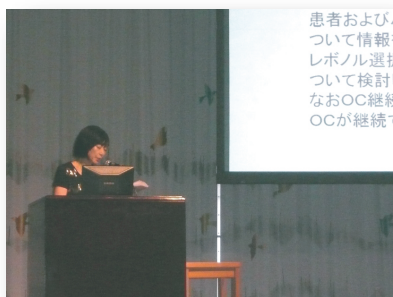


2011年度 厚生労働省エイズ動向委員会より

思春期の危機に迫る

～第31回日本思春期学会に参加して～

医事責任者 本山晶子



去る9月1日・2日、第31回日本思春期学会が軽井沢にて行われました。私にとっては初めての学会参加ということで若干緊張しながらも、仙台より少しは涼しいかなと期待しつつ向かいました。が、2日間とも雨模様。しかも気温が25度前後と、真夏とは思えない涼しさに震えながらの参加となりました。

今回のメインテーマは『思春期の危機に迫る』。思春期の子どもを持つ私にとっては、非常に興味深いテーマでした。会場は3つに分かれており、とても盛り沢山の発表も聞きたいものばかりで迷うほどでした。一概に思春期とはいってもテーマは

多岐にわたっており、引きこもりや自傷行為、性同一性障害や空気を読まなければいけない世代のサバイバル方法など様々。また月経や避妊、ピルについてなど、こちらでもおなじみのテーマも色々な角度からの発表がなされ、大変興味深い内容でした。きよくりからも、助産師の宮本が「緊急避妊薬レボノルゲストレル導入後の動向」について発表しました。緊急避妊からピル選択へ、そしてピル継続を支援するための今後の課題について述べました。

思春期というとやはり女の子の性がよく取り上げられますが、今回はとくに男の子にもスポットを当てており、男の子の親である私としては知らなかった・避けてきた事など気付かされ、目からウロコのお話でした。男性は自分の意思に関わらず夜中に5～6回も勃起をしていること、マスターベーションはもはや当たり前となっているにも関わらず公に話されることがなく、正しいやり方を知らないための弊害（女性の膈内で射精できない）が起きていること、またマスターベーションを助けてくれるグッズもあることなど。そういった事は人に話したり聞いたりするようなことではない、知ろうとしないで良いという風潮の中で育ってきた私にとっては、そのことを真剣に研究している人がいること、一方で悩んでいる人が沢山いることも驚きで、自分の子どもはどうなるのだろうかかと真剣に考えさせられてしまいました。

今回の学会では、医療現場の医師からの発表・講演が多く、今何が問題なのか、どんなことに心を砕いて診療しているのかなど、真に迫る内容が本当に多かったと思います。なんとなくわかっているような気がしていたことも実際は難しく、綺麗事では済まされない現実と、それに正面から向き合っている医師達の情熱を強く感じました。私も医療の一端を担う者として、何かお手伝い出来るように頑張っていきたいと思わせてくれる貴重な経験となりました。



男性用マスターベーション用グッズ
TENGA

新スタッフ紹介

医療事務・受付 高橋智江（たかはしともえ）



これまで10年間、他の内科医院で医療事務を務めてきました。日進月歩の医療情報と格闘しながら新たな分野で日々、勉強の毎日です。1日でも早く皆様のお役に立てるよう気を引き締め、そして『初心を忘れずに』頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

年末年始の休診

編集後記

○10月26日（金）～27日（土）は日本女性会議2012参加のため休診となります

暑かった夏も終わり、心地よい秋がやってきました。節電に努めた皆さんは心待ちにされていたのではないのでしょうか。

紅葉狩りや秋の味覚など、楽しみはいろいろです。仙台には綺麗な街路樹がたくさんあるので、のんびりお散歩も幸せですね。素敵な秋を満喫してください😊



○年末年始のお休みは、決まり次第HPに掲載いたしますのでご確認ください。

発行元：村口きよ女性クリニック
http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp
e-mail:con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp